

## 脂肪乳剤について その1

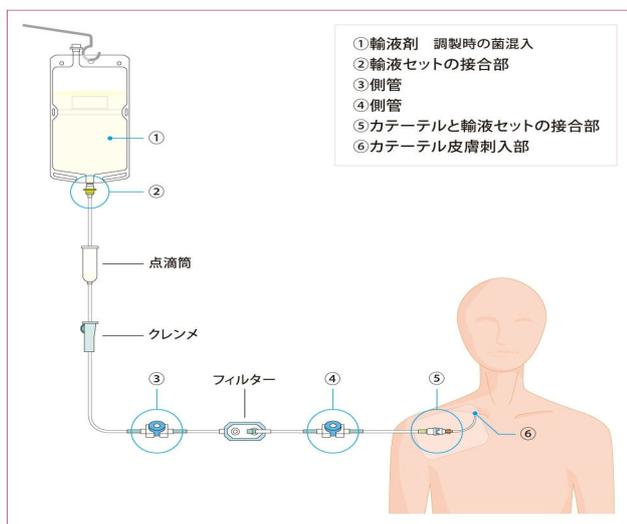
無脂肪の輸液の投与を続けていると、早ければ数週間で必須脂肪酸欠乏症（魚鱗癬皮膚症状、血小板減少、脂肪肝、倦怠感など）が出現します。

### Q1) 必須脂肪酸欠乏症を予防するためには？

A) 成人で10g/日程度の脂肪(20%脂肪 乳剤50ml)を投与すればよいとされています。

### Q2) 投与ルートは？

A) 脂肪乳剤感染の問題を考慮すると末梢ルートからの投与が基本ですが、中心静脈からの投与も可能です。その際、脂肪乳剤はフィルターを通過しないので、フィルターより患者側から投与して下さい。



・汚染対策に留意し、カテーテルの接合部や側注部などの微生物の侵入しやすい経路(左図①～⑥)には特に注意して下さい。  
・他の薬剤と混合すると脂肪粒子の粗大化や凝集がおこることがあります。ルート内での混合は問題にならない為側管からの投与は可能です。

### Q3) 投与速度は？

A) 投与速度が速すぎると脂肪が効率的に利用されず、高脂血症をきたします。20%脂肪乳剤の投与速度は「(体重÷2)ml/時」が適当です。体重50kgの方の場合、イントラリポス20%輸液50mlであれば $50 \div 2 = 25 \text{ml/hr}$ 。投与に2時間必要です。

薬剤部より

お知らせ

第3回院内NST勉強会(栄養素の生化学・代謝)  
7月7日(水)17:00～ 3階講堂